

第1回「オリエンテーション」

担当者について

- 担当者: 河野 稔(かわの みのる)健康システム学科 講師
 - Web: <http://arena.hyogo-dai.ac.jp/~kawano/>
 - E-mail: mkawano@ed.hyogo-dai.ac.jp
- ゼミ生の自己紹介
 - 簡単な自己紹介と抱負を話してもらいます

ゼミの進め方

ゼミ(ゼミナール)形式の授業の一番の特徴は、**少人数でテーマについて資料を購読したり、報告したり、議論をすること**です。つまり、講義のように教員からの一方向の学習ではなく、教員と学生や学生同士の双方向の学習になります。

《全体》は授業全体で、【毎回】は授業の回ごとに、次のような内容をする予定です。

- (全体) 大学での学習のための基礎知識と学習スキルを習得する
 - ノートの取り方、文献・資料の探し方、文献の要約(書評)、文書の書き方
 - レポートの書き方、発表(プレゼンテーション)
- (全体) ゼミの内容について自由に意見を出しあって、問題点や解決策を見つけ出す
- (全体) テーマやゼミ活動について疑問・質問があれば、ゼミ全体で考える
- [毎回] 自分が調べたこと/まとめたことを説明/発表する
- [毎回] 他の人の説明/発表に質問したり自分の意見を述べる
- [毎回] ゼミ活動の進捗状況を報告する(数分程度)

このゼミのテーマの基礎知識

情報モラル：情報化社会の光と影

- 情報化社会の現状
 - インターネットが生活の一部に:携帯電話の契約数は1億以上(2010年3月末現在)
 - インターネットが既存のメディアに迫っている(例:広告効果は、テレビや新聞に次ぐ)
- 光の側面
 - 総表現者社会:ブログ、SNS、Twitterなどで誰もが情報を発信できる
 - 群衆の叡智:大勢の個人の知識を集約できる(ウィキペディア)
 - 知識の高速道路:手軽に専門知識を得たり専門スキルを修得できる(無償の場合も)
- 影の側面
 - 精神的な被害:情報漏えい、誹謗中傷、有害情報、迷惑メールなど
 - 経済的な被害:知的所有権の侵害、売買のトラブルなど
 - 犯罪による被害:名誉毀損、違法/危険物販売、ネット詐欺、コンピュータウイルスなど
- 情報化社会を支える三本柱
 - 技術:情報技術による対策(フィルタリング、バイオメトリックス:生体認識、等)
 - 規制:法律の整備(不正アクセス禁止法など)、警察による監視、民間の自主規制
 - 倫理:個人の自覚・自律を高める(情報教育、啓蒙活動)

参考文献

- 情報教育学研究会 情報倫理教育研究グループ「インターネット社会を生きるための情報倫理 2010」, 実教出版 (2009.11).
- 情報教育学研究会 情報倫理教育研究グループ編「インターネットの光と影 Ver.4」, 北大路出版 (2010.01).
- 梅田望夫「ウェブ時代をゆく」(ちくま新書 687), 筑摩書房 (2007.11)

次回の予定

「学習活動における基礎的知識と学習スキル」

大学での学習活動において、どのような知識が欠かせないか、また必要となるスキル(技能)にはどのようなものがあるかを考えます。

- 大学の授業への取り組み方
- ノートの取り方(ノートテイキング)

準備するもの

- キャンパスガイド
- 授業のノート(どの授業でもよい)
- 自分が「ノートを取るのに役立つ」と思う筆記用具